



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡～

令和6年9月20日
教育委員会事務局歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

「令和6年度もりおか郷土芸能フェスティバル」を開催します。

市及び市教育委員会が盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と共催し、市内各地に古くから伝わる無形民俗文化財に指定されている郷土芸能をキャラホール（盛岡市都南文化会館）にて披露します。また、開会式の中で、永年にわたって民俗芸能の伝承に励まれ、無形民俗文化財の継承・維持発展のために尽くされた方々を表彰します。

つきましては、取材の上、周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記

【日時】令和6年9月29日（日）10：00～16：00（予定）

【場所】キャラホール（盛岡市都南文化会館）

【対象】どなたでも

【費用】前売り800円、当日1,000円（中学生以下無料）

※前売券は市内プレイガイドにて販売中

【主催】盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会

【添付資料】チラシ1部

【スケジュール・出演団体等】

出演順	出演時間（予定）	所要時間	出演団体等	指定
	10：00～10：20	20分	開会式	
1	10：30～10：50	20分	巻堀神楽伝承会	市
2	10：55～11：15	20分	三本柳さんさ踊り保存会	県
3	11：20～11：40	20分	下永井獅子踊り保存会	市
4	11：45～12：00	15分	城内さんさ踊り保存会	市
	12：00～13：00	60分	昼休憩	
5	13：00～13：25	25分	大ヶ生山伏神楽保存会	市
6	13：30～14：00	30分	庄ヶ畑郷土芸能振興会	市
7	14：05～14：45	40分	見前町田植踊り保存会	市
8	14：50～15：15	25分	永井大念仏剣舞保存会	国 ユネスコ
9	15：20～15：40	20分	仙北小鷹さんさ踊り保存会	市

※出演時間は、進行状況により前後する場合があります。

【問い合わせ先】

盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局
（盛岡市教育委員会事務局歴史文化課）
担当：川村（かわむら）
TEL：019-639-9067（直通）

令和6年度

もりおか郷土芸能フェスティバル

令和6年

9.29日

キャラホール

(盛岡市都南文化会館)

盛岡市永井24-10-1

出演団体 (9団体予定、順不同)
※出演団体及び出演団体数は変更になる場合があります。

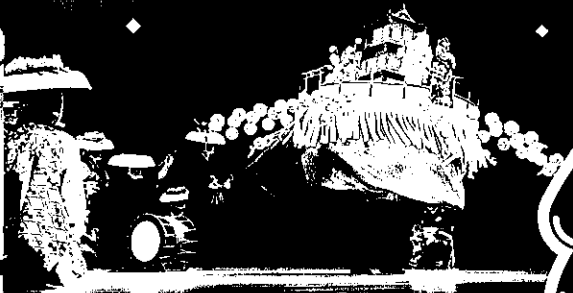
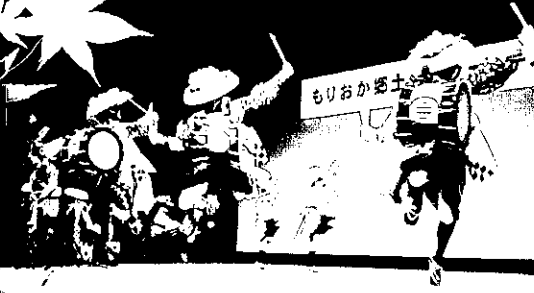
神楽 大ヶ生山伏神楽保存会
巻堀神楽伝承会

田植踊り 見前町田植踊り保存会
下永井獅子踊り保存会

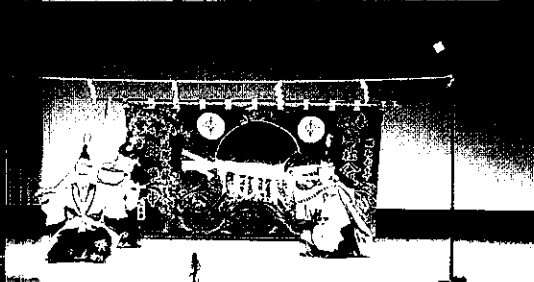
獅子踊り 永井大念仏剣舞保存会
庄ヶ畑郷土芸能振興会

さんさ踊り 三本柳さんさ踊り保存会
城内さんさ踊り保存会

仙北小鷹さんさ踊り保存会



もりおか郷土芸能フェスティバル



開場 9:30 開演 10:00 (終了予定16:00 途中昼休憩あり)

※開会式(10:00~10:30頃)の中で、盛岡市の民俗芸能の継承と維持発展に貢献した方を顕彰し、表彰を行います。

入場料 〈前売〉800円 〈当日〉1,000円 〈中学生以下〉無料

前売券販売所 ※前売券は事務局及び市内ブレイガイドにて、開催日の1か月前から発売予定
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)、キャラホール、川徳、アネックスカワトク、プラザおでっ、いわて生協(市内6店舗(向中野、高松、仙北、山岸、松園、青山)、ペルプ牧野林(滝沢市)、コープ花巻あうる(花巻市)、ペルプ八幡平(八幡平市))

◆主催/盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会 ◆共催/盛岡市、盛岡市教育委員会 ◆助成/令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

◆後援/(一社)岩手県文化財愛護協会、(公財)盛岡市文化振興事業団、(福)盛岡市社会福祉協議会、(公財)盛岡観光コンベンション協会、岩手日報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、月刊アキュート、情報紙ゆうゆう

お問い合わせ 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)

TEL:019-639-9067 (FAX:019-639-9047) E-mail:edu.bunka@city.morioka.iwate.jp



出演団体の紹介・出演順

開 会 式

① 巻堀神楽伝承会 (盛岡市巻堀)

巻堀神楽は、巻堀神社に伝わる神楽で、盛岡大清水多賀の社風神楽を習得伝授されて興ったもので、県下でも数少ない多賀神楽の系統であります。「笹の舞」は七代の舞の中にあり多賀神楽の基本の舞です。「二柱の舞」は神語「古事記」にまつわるもので、日本の国を造ったといわれるイザナギ、イザナミの命夫婦の舞です。

現在は伝承会の他、巻堀小学校、児童館、PTA、地域の皆さんの協力で伝承活動を行っています。

② 三本柳さんさ踊り保存会 (盛岡市三本柳)

三本柳さんさ踊りは江戸時代初期に発祥しました。文化文政の頃、時の盛岡藩 11 代藩主 南部利敬公から伝承奨励の巻物を授かり「踊り連中」によって伝承されてきました。

三本柳さんさ踊りは江戸時代から各地区に指導した歴史があり、さんさ踊りの源と云われています。衣装は蓮華の花をつけた妻折笠、五色の帯、手甲、脚絆、わらじ履きの巡礼姿です。

振りは踊りの原型、古体を残しているといわれ、いわゆるナンバに踊ると、しゃがみ込んでからの跳躍が特徴です。

③ 下永井獅子踊り保存会 (盛岡市永井)

下永井獅子踊りは明治 25 年に矢巾町耳取から伝えられたとありますが、それ以後の記録は不詳となっております。

昭和 15 年多賀神社に奉納上演した後、太平洋戦争の勃発などでしばらく途絶えていましたが、昭和 56 年に復活上演された後、多賀神社祭典奉納、もりおか郷土芸能フェスティバル等に出演し現在に至っています。

この踊りは幕踊り系の踊りで、獅子をかたどった頭をかぶり、幕を左右に大きく振り、腰を低く沈め大地を踏みしめるように力強く勇壮に踊ります。天下泰平、五穀豊稔、家内安全の祈願と、悪霊退散の行事を舞踏化したもので、動きが激しくテンポの速い踊りが特徴です。太鼓と笛の調べに合わせ厳粛な中にも勇壮に踊る獅子の姿をご堪能下さい。

④ 城内さんさ踊り保存会 (盛岡市大ケ生)

盛岡市大ケ生地区に伝わるこの踊りは、藩政時代に大ケ生館の城主が祖先の霊を慰め、豊作祈願をするとともに、住民の親睦を図るため三本柳さんさ踊りから教えを受けたものです。その後、城内の若者達が受け継ぎ、毎年盂蘭盆には、大ケ生の瀧源寺に集まり、夜を徹して踊り明かしたと云われています。

現在は、毎年、乙部中学校の「郷土芸能発表会」に向けた踊りの指導をしながら、継承に取り組んでいます。

昼 休 憩

⑤ 大ケ生山伏神楽保存会 (盛岡市大ケ生)

大ケ生山伏神楽は盛岡市上大ケ生に伝わる山伏神楽で、奉納先の板橋神社の別当の大ケ生氏が代々担ってきました。その先祖は本山派の修験で、権現様(獅子頭)は盛岡藩の惣祿から与えられたと伝えられています。

八幡舞は、四方へ弓矢を放ち悪魔払いをする祈祷の舞です。盛岡周辺の八幡舞は一人が多いですが、大ケ生山伏神楽では二人で舞います。跳んで向き合い、離れ、背中合わせになる力強いパートと、優雅さを見せるパートの両方がある点も魅力です。現在、後継者不足に苦勞していますが、毎年 8 月の板橋神社例祭で奉納しています。

⑥ 庄ヶ畑郷土芸能振興会 (盛岡市上米内)

庄ヶ畑さんさ踊りが伝わる庄ヶ畑地区は、盛岡市街から北東の方角にある上米内地区の中に位置し、その昔は野田街道いわゆる「塩の道」と呼ばれ、南部ご城下への出入口となる要所となった所です。

庄ヶ畑さんさ踊りは、伝承によれば江戸時代末期には既に踊られており、古来の輪踊りを現在も伝承しております。(さんさ踊りの他にも田植え踊りも踊られていました。)

現在は週 2 回ほど地元庄ヶ畑地区にある「庄ヶ畑地区振興センター」で地元小学生から大人まで一緒に練習に励んでいます。

⑦ 見前町田植踊り保存会 (盛岡市西見前)

見前町田植踊りは江戸時代の万治年間(1658~1661)のころから伝えられたものと言われ、田植作業を中心とした農耕作業を演劇化したもので、田園の情感がよく盛り込まれています。

一連の踊りの合間には狂言を演ずる稀な保存会で、今回の演目は狂言「柳樽」です。

【内容】

太夫の使用人である三八が太夫の言いつけに対して、まともに受け答えしないで、様々な仕草で返す様が滑稽です。

⑧ 永井大念仏剣舞保存会 (盛岡市永井)

「永井の大念仏剣舞」は、約 220 年前の寛政年間の頃に現在の紫波町日詰から剣舞の巻物がもたらされたことが始まりとされています。最大の特徴である大笠には、4 つの門がつけられており、それぞれ「発心門」、「修行門」、「菩提門」、「涅槃門」と言い、仏教の世界では、修行の段階を表すとされています。大笠振りは、先祖の霊を呼ぶ行為であり、先祖の霊が、この門を順番に通り返ることによって、最終的に涅槃の境地に入り、鎮魂されるという意味があり、それゆえに念仏剣舞の要とされています。昭和 55 年に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和 4 年 11 月 30 日には、「永井の大念仏剣舞」を含む国指定重要無形民俗文化財の「風流」に分類される 41 件の踊りが、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。ユネスコ登録後は、中立、踊り手が増え、登録が保存・継承の大きな力になっています。

⑨ 仙北小鷹さんさ踊り保存会 (盛岡市仙北)

小鷹地域は、その昔南部藩のお殿様が鷹狩りをしていた所とされています。保存会の原形は、明治時代より前に遡り、昭和の初期には、盛岡駅前・本町・八幡町周辺を中心に「門付け」をして家々を回り踊り、また、お盆には盆踊りとして踊りが受け継がれてきました。さんさ踊りの団体では唯一白い花笠を被り、踊りの速さは穏やかでしなやかさと溜めがあり、腰を低く下ろし全身を大きく活かした躍動感のある踊りの特徴としています。